

# にし西

## ■編集

西区役所総務企画課広聴係 〒063-8612 西区琴似2条7丁目1-1  
TEL 641-2400 内線224~227 FAX 641-2405

◎西区広報番組「西区情報プラザ」FMラジオ三角山放送局76.2MHz  
毎週月曜日午前11時～

◎西区協力番組「西区まちセン最前セン」同局毎週木曜日午前11時～

◎西区ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/nishi/>

## ◎区民のページ 2008・10



まちの人



場所を取らず、手も汚れず  
手軽に取り組める「色えんぴつ画」を楽しむ

さくらば ひであき  
桜庭 英明さん (69)

「いかに実物に近づけるかが腕の見せどころ」と言う二十四軒在住の桜庭さんは、色鉛筆を重ね塗りすることで、あらゆる色と質感を作り出します。桜庭さんの作品は少し離れた所から見ると、まるで写真のようです。

「退職したら、やることがないでしょ。だから時間つぶしにいいんですよ」と控えめに語る桜庭さんは、子どものころから絵を描くのが大好きでした。中学二年生の時にはお菓子会社主催の塗り絵コンクールで特選に輝いた事もあります。大学生のころ、イラストレーターを志望した時期



■桜庭さんの作品。金属や陶器の質感が見事に表現されている。

## 描くことが生きがいです

もありましたが、才能に自信が持てず、卒業後は国語教員の道へ。絵は趣味として、水彩画を描き続けてきました。

桜庭さんが色鉛筆画を本格的に始めたのは十三年前。何げなく描いたバナナを、色鉛筆で着色しようとしたのですが、なかなか思い通りの色が出せませんでした。そこで思い切って、強く色鉛筆を当ててみると、理想の色が出たのです。

「力の加減一つでこんなに違うのか」桜庭さんは色鉛筆の面白さに魅せられました。

四回目の個展を七月に終え、二つの教室で色鉛筆画の指導をしている桜庭さん。自宅二階の書斎で二十四色の色鉛筆を駆使して、朝から夕方まで、こもりつきりで描きます。「生ものを描いているときはモチーフが乾いて、質感が変わっちゃいますからね。ご飯を食べる時間なんて無いんですよ」とインタビュー中、台所に居た奥さんの方を気にしながら笑います。

今後は「『生と死』とか、絵を見る人に訴え掛けるような、テーマ性のある作品を作っていきたいですね」と桜庭さんは目を輝かせながら語ってくれました。

区民のページで取り上げてほしいテーマなど、皆さんからのご希望やご意見をお寄せください。はがき、ファクス、Eメール [nishi@city.sapporo.jp](mailto:nishi@city.sapporo.jp) で西区総務企画課広聴係上欄へ。